平成３０年度第１回南砺市福野地域審議会会議録

1　開催日時　　平成３１年２月５日(火)午後６時半から８時半まで

2　開催場所　　南砺市福野庁舎 (２階) 　講堂

3　出席委員　　１１名

 　　　　　　大藏博子、香川俊光、栗山芳雄、澤田清治、小西宏和、長谷川正昭、中野ミチ子、

中村義章、古瀬正嗣、前田美好、水木猛

4　欠席委員　　４名　岩崎弥一、齊藤和枝、堀元榮信、仲村朋子

5　市出席者　　田中市長、齊藤市長政策部長、上口市長政策部担当部長、川森市民協働部長、荒木市民協働部担当部長、小森地域包括医療ケア部長、叶山地域包括医療ケア部担当部長、柴地方創生推進課長、石﨑行革・施設管理課長、藤井医療課長、市川南砺でくらしません課長、丸田福野行政センター長、亀田地方創生推進係長、山田秘書係長、石本協働のまちづくり係長、勇﨑協働のまちづくり係副主幹、山下行革推進係長、武島福野行政センター次長、窪福野行政センター主事、大楠福野行政センター主事

1. 傍聴者　　 なし

7　　議題　　　（１）まちづくり検討会議からの提言について

　　　　　　　（２）地域づくり検討会議の結果について

　　　　　　　（３）庁舎統合後の行政センターの業務内容等について

8　その他　　　（１）公立南砺中央病院３階旧病棟の活用について

9　会議経過

○開会

事務局（センター長）から開会の宣言を行う。

○委嘱書の交付

新委員に対し委嘱書を交付。

○会長挨拶

古瀬会長

○市長挨拶

田中市長

○協議議題

古瀬会長が進行しながら順次議事を進める。

**（１）まちづくり検討会議からの提言について**

石﨑行革・施設管理課長から資料に基づき説明

（会長）

次の資料２から各地区の詳しい内容が載っており、事前に資料を配布されているので、目を通していることを前提として、ご意見を受ける。

（A委員）

城端から福光までの４地域で１年以上かけて検討委員会で十分な検討がなされて大変だったかと思う。各地域では特徴があり、それぞれ将来的なことを考えながら検討されているということで大変良いと思う。福野地域についてはいろいろ意見も出ているが、今後の進め方について、今回新年度４月から新たな係を配置し努力していきたいとある。そう言うからには「できることからする」というのはあまりにも曖昧で、今日までにいろいろな中身を考えてきたと思うが、来年から庁舎が統合されて新しい庁舎でいろんなことが進められるのに、自分たちも福野地域とこの福野庁舎がどのようになるのか具体的なことは知らない。もっと具体的な福野地域からこういうことを進めていきたいという話を聞かせてほしい。

先日の検討委員会で委員のみなさんからお聞きした中で、福野地域での交流施設の新設とか、民間活力による施設の運営などが強く押し出されていた。確かに建設的な意見で民間を通じた前に進んだ考え方と思うが、今日の資料を見ていても、それから日が経過しているが具体的な話はない。もっと具体的な突っ込んだ話が聞ければ良いと思う。次回の審議会まで相当日があり、民間活力によって交流施設がどうなっていくのか、もっと具体的な話を聞かせてほしい。福野地域なら福野地域なりの意見があってやらせてもらえたらありがたい。

（会長）

地域づくり検討会議には私も入っており、このメンバーの中にも３人入っている。資料を見ても分かりにくい点が多いと思うので、要約するという形で私から説明させてもらう。

福野地域のポイントは３つほどあり、一つは複合交流施設の整備ということ。これは今まで公民館の役割を果たしていた産業交流会館が老朽化し、これから小規模多機能自治を進めていく上での施設がないということで、複合交流施設を作ってほしいというのが原則である。ただそれだけではなくて、放課後の児童が集うアルカスの補完として、放課後の児童の学習スペースを提供する。あるいは、これから高齢者は地域で支えあうという体制づくりが求められていることもあり、高齢者の集える場にもなる。そういった諸々の要素を合わせた複合交流施設、要するに児童からお年寄りまで交流できる施設を作ってほしいというのが一点。

２つ目は福野駅周辺の整備ということ。資料２の方にいろいろ書いてあるが、福光高校は福野高校に統合されていく。そこで福野駅周辺の状況を見ると、駅から福野高校まで歩いていく学生の歩行状況が非常に悪い。福野駅の待合スペースが十分ではない。それから、福野駅前の駐車場が狭くてわかりにくい。それらのことを含めて、福野駅の周辺整備を考えてもらえないか、というのが２つめである。

３つ目は、これは若い方々からの提案であったが、地元住民、民間主導によるリノベーションスクールの開催の支援をお願いしたいということ。まちづくりの交渉や計画策定、勉強会、それから公民連携を開催し、若い方から実践者を教育していく。その中から民間、あるいは企業が実戦できるシステムを構築していく。そういったリノベーションスクールの開催の支援。例えばそれがうまくいけば、そういったいろんなことを整備していく資金は地域が負担していくとか、できるかどうかわからないが、クラウドファンディングを活用しながら、そういうことも実戦できるまちづくりをしていく。まちなかの空き家・空き店舗対策、それから複合交流施設の管理運営についても、リノベーションスクールの開催と連携しながら運営していくという形ができればよいと思っている。

まとめると、複合交流施設の整備、福野駅周辺の整備、地元あるいは民間主導で進めていくリノベーションスクールの開催の支援。そして、若い方たちとそういったまちづくりを進めていくという３つのポイントである。

（上口市長政策部担当部長）

A委員よりご質問いただいたが、具体的な話はこれからで、今庁内内部でこういった計画を実現していくにはどういったことをクリアしていかなければならないのか、課題を洗い出している。それを通して課題をどう乗り越えていくかということを今一度まちづくり検討会議のみなさんにお返しし、意見交換をさせてもらい、どういうふうに進めていくか、どういった方々に協力してもらうか、どういった手法で行っていくか、相談の上次年度から実現に向けて進めていきたいという考えである。今日は４つの地域でこういったお話があったという情報共有と、今後こういう方向で進めていくということをご理解いただきたいと思う。

（市長）

来年が総合計画の最終年度になり、次の総合計画を策定する準備をしている。その中で何年度に何々が入るかどうか、その辺を今詰めていかなければならないという段階である。実を言うと、福野のみなさまのPPP、PFI、公民連携については、すぐにでも勉強会をしようということで国の総務省やいろんなところと検討しているが、そういった補助金などがなくとも、どういったサポートをするか検討している。そういったリノベーションスクールも含めて、公民連携というか、民間主導と公共の間で整理をしながら同時進行で進めていくということである。総合計画の中に位置づけるということも含めて、今後取り組んでいきたいと思っている。前回の住民自治の発表会、昨年の発表から大分進んでいるだろうとのことだったが、ちょうど今整理し、もう一回検討会議のメンバーとやりとりすることを考えているので、それも含めて今取り組みをしている。

地域によっては、この検討会議の内容と、住民の皆さんとの合意形成がうまくいっているところといっていないところがあるというのも現実なので、そのあたりは市として地域ごとでの合意形成と市政全体のバランスの中での合意形成ということで検討していくので、ご理解いただきたい。

（会長）

他にご意見はないか。

（A委員）

総合計画の中での順位も含めてということか。

（市長）

総合計画となると実施計画の中には予算も入れていかねばならないので、当然その際には順番も検討していかねばならない。

（A委員）

庁舎をなくすのを優先するというのが原則なのか。

（市長）

今ここで、じゃあそれから１番に始めるとは言えない。当然バランスも含めて検討する。

（A委員）

しかし先程言われたように、後から述べる病院の問題でも、福光に統合することを先行されるわけであるが、廃止を先行してその後どうするか順番を決めていつになるかわからないということでは不安が残ると思う。たとえば小規模多機能についても、福野地域の自治振興会では行政センターがなくなったら大変だということで、各自治振興会では人口減少を抑えて進んでやっていこうとしている。統合後の庁舎について、城端や井波はいろいろな有効利用案を出しているが、福野庁舎はこれだけの資産でありながら、２階以上は全く使われなくなる。庁舎の維持には大変お金がかかるわけなので、できるだけ早く地域が要望していることを選抜するという要望を出したい。

（B委員）

先程会長からお話があったが、大きな拠点づくりは当然のことだが、それに付随して、実際に福野高校への駅からの路線、これについては実際に歩いているのを見ると、線路を慌てて渡る高校生が結構いるので、朝晩の登下校の時間になると、線路を渡るのは大変危険となっている。もう既に南砺で高校は一箇所に集約されるということなので、これは県の支援もいると思うが、是非高校生に怪我のないよう整備してもらいたい。というのは、何年か前になるが、登校している学生が列車に跳ねられて大怪我したという事例がある。是非その辺りを踏まえて事前に対応を考えてもらいたいというのが一点。

それともう一点、実は私は高瀬西に住んでいる。あそこは今福光と井波をつなぐ道路になっているが、この間この道で人身事故が起きた。なぜあんなところで起きるのかと思うが、あの道は福光の方から来ると途中まではやや広いが、安清という地域から急に狭くなるように感じる。それからずっと井波の方に向かって行くと旅川という橋を超えるが、あそこがS字になっている。特に冬場は凍結して非常に危ない。あそこはそんなに大型トラックは通らないが、とにかくカーブは見通しが悪い。あの県道をなんとかしないといけない。福光と井波を結ぶバイパスは皆さんあの道を通るので、通勤時間は１時間足らずとはいえ車が大変集中する。実際にあの辺りを見て、改善するよういろんな方法を考えてほしいと思っている。

（上口市長政策部担当部長）

高校の通学路の安全確保については、検討会議でも十分に検討している。やはりJRとの兼ね合いもあるので、その辺も含めて早急に検討を進めていきたいと思っている。また、高瀬西の道路については、当面、まちづくり検討会議の中には入っていないが、また担当にも伝える。

（C委員）

今駅裏の歩行路線の話があったが、議会の発言によると駅裏には工場があり、除雪にもお金がかかり、歩行動線を作るのには莫大なお金がかかるというが、計画もなにもできていないのになぜ莫大なお金がかかるのか我々は不思議に思っている。駅裏・駅前の高校生の安全については是非考えてもらいたい。また、高校生の居場所というか、今高校生がこの福野地域に居場所がないといっているのを聞いている。そういうことも考えて交流センター的な場所、高校生も集まれるような場所を考えてほしいと思う。

（市長）

駅の裏側に駅を渡って下りられる道を作っていくという話にはまず一つの関門があり、例えば市で改札を設けるということになると、JRとの協議では改札を設けるには何年もかかるというのが分かる。そこで今回は４月とか５月からとかすぐにやっていかなければならないことを、まずはやっていくということを申し上げた。

当然、駅の裏も表も活用できるようになれば、そのときはさまざまなやり方が考えられると思うが、それはこの先何年間か相当時間がかかると思う。福野高校は２クラスから１００人近く増えるということなので、安全を確保するということでは、県にもいろいろと状況を説明したり、まずは当然安全が一番大事だということで、進めていることを申し上げた。

私自身、個人的な考えも含めると、やはり駅の周辺というのは１００人ぐらいが電車が来るまでに時間をつぶせる場所があるというのは大事なことだと思うので、そういったことを、逆に民間の皆さんと検討していく。それとあわせて、駅前のざらざらとしたところをどうするか、これも検討していく。それと、駐車場の入口とか、全体の絵を描けると思うので、いろいろと手を着けているということは理解してほしい。それと、将来的な大きな構想というのはまた別の次元で進めていくというのが今の段階かと思う。

（会長）

一点だけ、先程A委員が福野地域の整備を早くやってほしいと言われたが、例えば、福野庁舎は下に借地があると聞いている。そういうことであれば、来年庁舎の機能がなくなった後もずっと借地を持ち続けるというのは不自然で、他の３地区とは内容が違う。機能がなくなったら早く整理をして、残った市有地に今私たちが言っている複合交流施設を早く整備してもらうというのが大事だと思う。そういうもろもろの条件を整理しながら、検討してほしい。

（市長）

いろいろと地域ごとの順番を気にされることが多いと思うが、統合庁舎を実際にどうするのか、というところも具体的には決まってない。逆にそういったことと先程言われたスピード感をもってやらなければならないこともあるので、いろんな条件は私も理解しているつもりで、やっと皆で検討し始めたということで理解してほしい。

（会長）

地域づくり検討会議の結果について事務局から説明をお願いしたい。

**（２）地域づくり検討会議の結果について**

　　　柴地方創生推進課長から説明

（会長）

地域づくり検討会議の内容について質問や意見はないか。

（D委員）

PTAの立場からすると、今説明のあった地域づくり検討会議の内容を見ると、やはり子供のことが要望というか、目指すべき姿の中に多いと感じる。その前のまちづくり検討会議においても子供に対するメッセージは強いというのがよくわかる。いろんな提言の中の「これから実現していきたい」という項目の中で、子供が将来どういう生活ができるかという点を是非検討してほしい。特に先程福野地域の話でもあったように、２０年３０年先を見据えるとしたら、今生まれた子供が２０歳３０歳になったとき、その子供たちが豊かに暮らせる地域をどのように作るかという視点になると思う。そういったことを含めて、今の地域の拠点をどのように作っていくかを視点として入れてほしい。先程のことも関係してくるが、今いろいろ検討している中で、各世代の方に参加してもらっていると思うが、２０代の方の意見も積極的に取り入れてほしい。その方たちが２０年３０年後、自分たちの子供が成長したときに安心して暮らせるまちづくりにしてほしいと思っている。特にPTAの立場からすると、子供のためにというところをより重点的に施策の中に入れてほしい。

（上口市長政策部担当部長）

今後、福野地域においてもみなさんと意見交換し、総合計画でも審議会という中において幅広い年代の方に男女問わず参加してもらい、未来を担う高校生などの意見も取り入れたいと思っている。参考にさせてもらう。

**（３）庁舎統合後の行政センターの業務内容等について**

荒木市民協働部担当部長から説明

（会長）

意見や質問はないか。

（A委員）

資料４の（２）、庁舎統合後についてだが、担当課や団体に業務を移行するのは主に地域振興窓口業務とあるが、将来的には各地域にある団体業務というのはこれからも振興窓口で対応していく形となるのか。例えば友好交流協会の事務などは、今まで行政センターの地域振興窓口で手伝ってもらっていたが、それはそのままということなのか。

（荒木市民協働部担当部長）

そういった友好交流協会等、団体運営については、現在団体の方で事務をお願いするよう進めている。協議の上了解をもらいたい。それまでは継続するというふうに考えている。

（A委員）

私たちがこの資料で見えてくるのは、例えば私どもの自治振興会連絡協議会等、各種団体の事務で行政センターが携わっていたものは、各団体で行うようにするということなのか。また、団体の名前は公表できるのか、いくつあるのか。

（荒木市民協働部担当部長）

基本的には行政センターでは事務を行わず、団体の方に移行していく。例えば菊まつりなどの大きなイベントの実行委員会の部分については、イベントを補佐していく係を検討していきたいと考えている。

（市長）

原則として行政センターは窓口事務のみ。それでこの人数を見ると２９名くらいが、例えば観光課とか本課に移る。そして、移った先で行う事務もある。菊まつりなどの業務を誰がやるのか、となったときに、観光課に担当を作る場合もある。それぞれの自治振興会の事務局については、自治振興会の小規模多機能などで誰かがやる、そういったことを一つ一つ知恵を出しながらやる。その中で本課で行う事務、団体の皆さんで行う事務、輪番制で行う事務、これを精査していく。先程名前を挙げてほしいとあった各種団体は１８５ある。行政センターでそれぞれ整理しながら、自分たちでやれることはやってもらう。それとか、商工会の担当の方でやっていくか、皆でやっていくものについては整理する。ただ、途中で投げ出したような形にはせず、今から相談してやっていく。

（A委員）

いずれにせよ１８５あるのは大変だと思う。例えば利賀そばまつりなどでも窓口は行政センターになっていると思うが、そういったことも団体に移行するということか。

（市長）

　　　もちろん、今もほぼ団体に移行している。団体に移行しているが、それを今度は観光まちづくり課の方でサポートする形に変わる。

（A委員）

菊まつりなども、相当行政センターに手伝ってもらっている。

（市長）

行政センターの人員が減って、人手が足りなければ、本課からきてもらう。そうしないと、多分できないと思う。

（会長）

まさにそのことを私も心配しており、例えば南砺を代表するようなイベント・祭り、福野でいえば菊まつり、利賀ではそば祭りなどは南砺市を代表するイベントなので、行政センターではできないとなると、観光課などで引き継いで支援する体制をとってほしい。友好協会にしても向こうの市ともやりとりが必要で、そういう性格のものはやはり行政の担当部署で引き続きやっていくようお願いしたい。

（市長）

もちろん、観光まちづくり課と向こうの市とは当然やりとりをしている。振興窓口業務の移行については単体でやっているところもあるし、交流協会でやっているところもあり、二重でやっているところもある。委員会をどうするかというところも含めて検討していくので、心配のいらないようにするためにこういう知恵を出していることを理解願いたい。

（A委員）

２年後の表で、五箇山村だが、福野・福光と比べるとかなり大人数に見えるが、これはどうなのか。

（市長）

注意書きでバスの運転手も含まれるとある。バスの運転手専属の方も入っている。下の方にも書かれているが、平は複合施設となっており、その施設管理も含まれている。利賀は救急医療の関係もあわせて入っているので、そういう意味で人員は多めとなっている。

（会長）

私はよく福野行政センターに行くので様子を見ると、福光の行政センターに比べて福野の行政センターの人の出入りは非常に激しく、言い方は悪いが福野に比べると福光行政センターは閑散としているように感じる。それはやはり大きな企業があったり、その従業員が利用されるのが要因としてあると思うので、行政センターの職員を一気に少なくできるかどうかはかなり問題があるということを個人的には思っている。

（市長）

受付件数のデータは持っているので、検討の上の人数である。

（E委員）

火曜延長を今までどおりされると、窓口の人数は変わらないということかもしれないが、その人数にセンター長が含まれるとしたら、実際に窓口応対できる人数は少なく、かなり負担になると思う。利用者がたくさんいるとしたら、利用者の状況も今後検討してもらい、別の方針をとるということも考えているのか。

（荒木市民協働部担当部長）

福野行政センターの火曜延長の利用者数が増えていること、件数も多いことは聞いている。現在も他の行政センターから応援体制を組んでおり、福野行政センター以外の職員も入ってもらってもいる。今後も引き続き検討していく。

（会長）

それでは庁舎統合後の行政センター業務内容については特にないようなので、若干時間があるので少し遡り、まちづくり検討会議の内容、地域づくり検討会議の内容、それから行政センターの業務内容、全体についてご意見ご質問があれば聞きたいと思う。

（A委員）

内容がちょっとずれるが、先日警察から交通安全のチラシが入っていたので思ったことがある。以前３０４号線であった事故は福光庁舎前の横断歩道でのことだったのか。庁舎の前に２ヶ所ほど横断歩道があると思う。

最近警察から自治振興会に連絡があり、統合されてなくなった保育所の前に横断歩道がそのまま残っていて、実は保育所が廃止になった後も子供がそのまま歩道を利用していて事故にあう可能性がある。そこで自治会に横断歩道をなくしてもよいかという問い合わせがあった。新たに横断歩道を作ることにすればよいかと聞いたところ、それは大変手間がかかると言われた。

福光庁舎へ行くのに一般の方が多く利用しているし、３０４号線の庁舎前で事故が起きるとなると心配である。そういうことについて、少し伺いたい。

（市長）

先日の事故はまさに福光庁舎の前で起きた。警察署長の方々などが説明に来たが、まったく原因は前方不注意だったということで、どんな道であろうとも前方不注意の人がいたら事故は起こる。道路改修を早くしてほしいというのは伝えている。

ただし、先程言われたように庁舎前での事故なので、こういった事故があったということは、できるだけ早くちゃんとした歩道のついた拡幅した道路を作ってもらいたいとお願いしたところである。交安の事業はなかなか予算がつかない。では市でやればどうだという市民の方もおられるが、ルールが違うので、そのあたりをどうするのか、横断歩道をどうするかも含めて必要なところは要望していかなければならない。

（A委員）

３０４号線の拡幅は以前から計画があるが、いつごろ完成するのか。

（上口市長政策部担当部長）

完成する時期はまだ明言されてない。

（A委員）

窓口の方も集約して、何か相談があれば福光に行ってくれというのであれば、道路が危ないというイメージがあるので、早く拡張してもらうように言ってもらいたい。あの場所で事故がないように吟味してほしい。また、マナーの悪い車がいて子供が歩道を渡るのを待たないといったこともある。そういったことも含めて早く３０４号線を広げ、安全に交通できるようにしてほしい。

（会長）

それでは特にご意見ないようなので、今日の議題は特に決をとるようなものではないが、私の方から最後に一言申し上げる。くどいようではあるが、庁舎がなくなるということで福野地域は負担に思っている。そういう意味では、早く福野のまちに元気を出したいと考えている。福野地域は他の３地区とは少し条件が違い、特に庁舎の下には借地があるといったこともあるので、どちらかといえば、庁舎の跡地を整理し、そこに複合交流施設を作るということをすばやくやってほしいと思っている。そしてもう一つはリノベーションスクール開催の支援。先程も色々と調整しているとお聞きした。こういったことをめいっぱい努力して進めてもらいたいと思っている。

○その他

**（１）公立南砺中央病院３階旧病棟の活用について**

藤井医療課長から説明

（A委員）

３億３千万円の資金とは、どのような内容になっているのか。

（小森地域包括医療ケア部長）

３億３千万円の内容については、財源は地方債の利用を予定している。また３階の部分については、保健センター、訪問看護ステーションなどの部分が市の公共施設の立場となるので、病院の事業としてではなく、市の事業として行う。

（E委員）

せっかく地域包括支援センターを井波にまとめたのに、何故ここにも設置するのか。こちらに需要が多いのか、井波ではまかないきれないのか。

（小森地域包括医療ケア部長）

井波にある地域包括支援センターでは福祉、医療、それと健康部門についてまとめて行うわけだが、将来的には井波だけでは抱えきれなくなる。訪問看護ステーションは今現在中央病院１階にサテライトとしてあり、それを３階に移すということ。また、地域包括支援センターも将来的には訪問看護ステーションと同じように、こちらにサテライト的なものを設けたい。

（E委員）

それは分かるが、今窓口などをまとめようとしているところに、新たに設けるというのはいかがなものかと思う。

（小森地域包括医療ケア部長）

今現在訪問看護ステーションはサテライトとして中央病院にある。何故中央病院にあるかというと、あそこの医療機関の支援によって、城端・福光エリアで現在活動している。また井波では市民病院を中心に活動する。なにぶん南砺市は広いため、井波から城端まで抑えることは効率的には悪い。そのため、今訪問看護ステーションを設ける。

（E委員）

訪問看護ステーションについては了解した。地域包括支援センターもサテライトとして何人かをそこで配置されるのか。

（小森地域包括医療ケア部長）

基本的にはその予定である。現実的には地域包括支援センターの人員数では、将来の高齢者人口を考えると不足することになる。今の場所だけでは距離的な問題もあるため、こちらの方にもそういう介護の拠点を作りたいという構想である。ただこれはすぐにできるものではなく、人的な確保も必要なので、今すぐというわけにはいかない。地域包括支援センターも、高齢者のお宅などに車でいくなど、訪問看護と同じような形の活動もある。そのため、できればこちらの中央病院にも一つサテライトを設けて、ここのエリアを抑える、また相談を受け入れるという体制を作りたい。

○閉会

○副会長挨拶

　　　栗山副会長

　　　事務局（センター長）から閉会の宣言をする。